

外部人材を活用した学校づくり

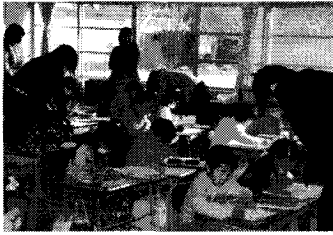
高知市立新堀小学校

校長 山中文恵 学級数 一四 児童数 二七六名

学校が向き合うべき課題は、以前よりはるかに複雑化し予測困難なことが多くなっている。その課題解決（充実した教育活動、学力向上）のため、様々な改善プランを計画し実践している。

教員の授業力アップに向けて、次のような学校改善プランの実践を行った。

- ・子どもの学力向上を目指して授業研究の在り方を充実させる。
- ・教育資源として外部人材を活用して、授業づくり・授業改善に生かす。
- ・人間関係づくりを通して、授業づくり・授業改善に専念できる環境を整える。



新堀塾（地域連携）



昔話紙芝居（地域連携）

実践事例では、「見取りシートを活用して授業研究の活性化を図る」として、
①見取りシート
の作成で

は、指導案の学習活動ごとに、横軸に教授・学習のチェック欄を設けたシートを準備し、授業観察中に各学習活動ごとの「気付き」をメモする。下欄には板書を記入し、各教員の今後の板書計画に活用する。

②事後研究では、小グループに分かれグループ討議を充実させながら、見取りシートを活用して研究・協議を深める。また、「外部人材を活用して指導力アップに生かす」として、従来の学校教育では一般に相いれないと考えられてきた人材を教育活動に導入した。

・【新堀塾】発展的な学習量の確保：：全児童対象

塾講師による加力指導の実施（月・水曜日の6時間目）

・【新堀マックス】運動量の確保：：全児童対象

スポーツ指導員によるスポーツ教室の実施（木曜日の

6時目・放課後）

・【みどり教室】振り返りを中心とした学習量の確保：：

4～6年生対象

退職教員・退職管理職・大学生による復習指導の実施

（月・火・金曜日の午後4時から午後4時50分まで）

お互いの「よさ」を意識し、日々の授業づくり・授業改善に生かすことの出来る教員の柔軟性が育っている。各種補助金を活用し、3年目を迎えている。

それぞれの立場で、子どもたちの変容等を具体的に話し合いながら、双方向での質の高い取組みが出来るよう互いに研鑽しあっているとこである。

（高知市教育委員会推薦）

コミュニティ・スクールの 制度を活用した学校づくり

中土佐町立大野見中学校

校長 稲田稔明 学級数 三 生徒数 三三名

本校は、時代の要請・本県中学校の課題等様々な課題に対応する学校づくりを目指し、学校経営で三つの視点を中心とした取り組みを行なっています。

その一つとして、コミュニティ・スクール制度を活用した学校環境づくりです。

「内と外に開かれ、生徒・保護者・地域の方から信頼される学校」「生徒が毎日笑顔で登校し、充実感と満足感が味わえる学校」を



地域の方との茶摘行事(地域連携)



保育園児とのホットケーキづくり
(保小連携の取り組み)

る学校」を目指す、生徒や教職員が意欲を持って取り組むことが出来る学校環境づくりに努め、地域と連携し

た活動、地域への学校の開放を積極的に行なっています。

二つ目は、内に開かれた学校づくりを重視し学力向上の取り組みで提案・発信できる学校づくりです。

帯タイム(毎日10分間、全校一斉に授業)、朝読書、家庭学習(毎日学年団で点検・指導) チャレンジタイム(週2回、英語・数学、全教員で授業実施)、学力・学習の定着状況を生徒・教員・保護者全員で確認、特別支援教育支援員と連携した、支援を要する生徒に対する個別指導、学習進度表による授業時間の確保等の取組みを行っています。

三つ目は、不登校をはじめ生徒支援を発信できる学校づくりです。

保小中連携教育の充実、特に中1ギャップの解消や小中学校への出前授業部活動指導の継続や、総合的な学習の時間には保育園・小学校との交流活動等に取組んでいます。職員会では、地域の関係機関の方々と交えての生徒理解・生徒支援を行なっています。学校運営協議会においては、情報交換や気になる生徒・家庭への支援方法について協議を行なっています。また、生徒自らも校内ボランティアに取り組み、学校環境づくりに貢献できる生徒の育成をめざしています。

(中土佐町教育委員会推薦)